

市町村等との情報交換で地域農業の課題を再確認

コロナ禍により現場での普及活動も希薄になりがちですが、地域農業の振興に当たっては、市町村等との情報交換が不可欠です。そこで、改めて地域農業の課題等を確認するため、大和山室長や副室長が管内市町村・農協を巡回し、農業振興担当課長等と情報交換を行いました。

当室からは、今年度、重点的に取り組む新規就農者の支援活動を説明し、協力・助言を求めました。一方、関係機関からは、主な意見として、担い手や新規就農者の支援方策、労働力不足対策、鳥獣害対策、基幹品目（いちご、にんにく、おうとう、そば等）の生産振興対策、などが出されました。

また、近年、取組が加速しているスマート農業（ICT 農業技術）については、小面積ほ場が多い当地域では、GPS 電波に頼らない省力機械等の活用が必要との意見が出されました。今後も情報交換を継続し、普及活動に繋げていくこととしています。

新任者前期農家派遣研修を終えて(永澤技師の報告)

6月下旬に南部町相内の沼畑俊吉氏の下で新任者農家派遣研修に行ってきました。沼畑氏は水稻、ミニトマト・南部太ねぎ、おうとう・なし、養鶏など三八地域特有の多品目による複合経営を行っており、様々な経験ができました。研修中は毎日が新鮮に感じられ、あっという間の10日間でした。この研修を通して、農家に寄り添う普及職員として成長し、青森県の農業に貢献していきたいという気持ちが強くなりました。

今回の研修で得た知識を今後の業務に還元していけるよう、頑張っていきたいと思います。



〈外国人技能実習生と共同で作業〉



〈沼畑氏(右)と永澤技師〉

農業経営の課題や悩みを相談してみませんか！

～ 農業経営相談所の御案内 ～

農業普及振興室では、経営転換や担い手育成等に対応するため、経営相談所を開設しています。

また、農業者の皆さんが抱えている課題に応じて、税理士等最適な専門家を派遣し、課題解決まで継続して支援しています。

相談料や専門家の派遣費用は無料となっていますので、農業普及振興室までお気軽に御相談ください。

〈相談事例〉

- 法人化を目指したい ⇒ 税理士による税務・財務の助言
- 事業拡大をしたい ⇒ 中小企業診断士による経営診断
- 労務関係を整備したい ⇒ 社会保険労務士による雇用の助言



みどりの通信

令和3年度第2号

発行日：令和3年9月13日

〈三八地域県民局地域農林水産部〉

- ・農業普及振興室
- 〒039-1101 八戸市大字尻内町字鴨田7番地
- TEL：0178-27-5111（代表）
- TEL：0178-27-4444（直通）
- FAX：0178-27-3323
- ・農業普及振興室分室
- 〒039-0134 三戸町同心町字同心町平54-7
- TEL：0179-23-3264
- FAX：0179-23-3274

凍霜害を乗り越えて ジュノハート高品質安定生産に向けた取組

おうとう「ジュノハート」は、本県育成の大玉・良食味が特徴の品種で、おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会ではブランド化に取り組んでいます。

令和2年に全国デビューを果たした「ジュノハート」ですが、今年は1月の凍害や4月の霜害により、花に障害がみられました。

そこで、農業普及振興室では、「ジュノハート」の結実確保と高品質安定生産に向けて取り組みました。

① 人工授粉の徹底による結実確保

三八地域では、1月に-16℃を下回る低温や、4月に度重なる降霜があったことから、管内の凍霜害の状況を把握するために現地調査を行いました。園地によっては障害の程度が大きかったことから、講習会の開催や生産情報の発行により、障害の発生状況を情報提供するとともに、効果的な授粉方法や霜害を受けても結実確保した事例を紹介し、授粉の徹底を呼びかけました。

② 生育観測ほのデータを活用した適正管理指導

各地域の生育状況に基づいた適正管理指導のため、生育観測ほを管内5園地に設置し、生育状況や気温、土壌水分を調査しました。調査データを基に、満開日を基準とした適期管理や着果状況に応じた摘果の対応などについて、講習会での指導や、生産情報の発行により広く情報提供しました。

このほか、個別巡回による濃密指導、着色向上に向けた実証ほの設置、研修会等での出荷規格の周知を行いました。

今年産の「ジュノハート」は、凍霜害の影響で全般的に結実が少ない状況でしたが、例年以上に授粉作業を行い、結実を十分確保した生産者もみられました。さらに、地元市場の初競りでは、前年を上回る高値がつけました。

来年産に向けては、霜害対策や結実確保などの基本技術の指導を継続するとともに、着色の鈍化や障害果の発生がみられたことから、収集したデータを基に対策を検討し、高品質安定生産技術のさらなる普及を図ります。



〈ジュノハート栽培講習会〉

三八新規就農者支援連絡会議を開催

農業普及振興室では、新規就農者の早期経営安定に向けて「三八新規就農者定着支援事業」（令和3～5年度）を実施しています。

今年度は事業のスタートとして、令和3年6月11日（金）に「きざん八戸」において「第1回三八新規就農者支援連絡会議」を開催しました。

会議では、管内市町村担当者、JA八戸、農業者代表が参加し、新規就農者の確保・育成に向けた課題と支援策について意見交換しました。担い手の確保については、市町村共通の地域農業の重要課題であることから、今後も会議を定期的で開催し、関係機関の連携を深めながら、支援策強化を図っていきます。



〈関係者による意見交換〉

収益力アップチャレンジ農場研修会

農業普及振興室では、三八管内の新規就農者が取組可能な高収益作物として、スナップエンドウ、ピーマン、ミニトマトの実証ほを設置しています。

スナップエンドウは、令和3年6月25日（金）に田子町の上沢洋貴さんのほ場で研修会を行い、収穫期の高湿・乾燥に対応した灌水チューブの設置による安定生産について学びました。



〈スナップエンドウ研修会〉

ピーマンは、8月20日（金）に新郷村の福山明子さんのほ場で研修会を行い、樹勢の適正管理による収量・品質向上について学びました。



〈ピーマン研修会〉

ミニトマトは、9月7日（火）に南部町の田中広大さんのほ場で研修会を行い、有機質肥料を施用した土づくりによる長期安定生産について学びました。



〈ミニトマト研修会〉

今回実施した研修会では、新規就農者のほか栽培に関心のある農業者らが延べ45名参加し、研修会の後もほ場で盛んに情報交換が行われました。

軽量野菜をつくってみませんか

農業普及振興室では、高齢化や労働力不足に対応するため、比較的軽労働で設備投資の少ない「ピーマン」や「スナップエンドウ」などの軽量野菜の作付けを推進しています。

「ピーマン」と「スナップエンドウ」は、三八地域で栽培が盛んな品目で、八戸農協でも栽培に力を入れており、当室と連携し指導体制を強化しています。

栽培に関心がある方は、農業普及振興室や三戸分室、八戸農協に気軽に声をかけてください。



三戸町初のJGAP認証取得

（農業生産法人 株式会社よしだや）

令和3年4月25日、株式会社よしだや(吉田清華代表取締役)が、三戸町では初となる「JGAP」認証を「にんにく」で取得し、松尾町長へ報告しました。

吉田代表からは、「リスク管理を徹底しながら、商品の付加価値向上を目指していきたい。環境に配慮した栽培で、消費者に、安心でおいしいと思ってもらえるように取り組んでいきたい」と意気込みが語られました。



〈松尾町長(左)と吉田代表(左から2人目)・社員〉

鳥獣害対策として電気柵を設置しました！

三戸町では近年、クマによる飼料用とうもろこしの被害が増えていることから、町の事業を活用し、畜産農家のほか、役場や農業普及振興室も参加して、ほ場2か所（計2.2ha）に電気柵を設置しました。当日は電気柵の専門業者の指導を受け、クマがとうもろこしを食べたくて身を乗り出したときに、鼻先が電気柵に当たる位置に設置することがポイントであることを学びました。



〈関係者が協力して電気柵を設置〉

スマート農業を活用した田植えの実演

JA八戸水稲部会三戸酒米支部では、良質な酒造好適米の生産に向けて、スマート農業機械の実演を行っています。昨年秋に三戸町貝守地区において、収量・食味センサ付きコンバインで、ほ場内の分布を調べ、地カムラを修正する施肥マップを作成しました。今年5月18日にはこのマップに基づき、投下する肥料の量を自動的に制御しながら田植えを行いました。秋には2年分のデータを比較して、施肥改善の効果を確認する予定です。



〈施肥マップの確認〉



〈可変施肥田植機の実演〉

その他、管内の農業・農村の動きや農業普及振興室の活動状況はこちらを御覧ください！

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/sa-nosui/>

